

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-23721

(43)公開日 平成5年(1993)3月26日

(51)Int.Cl.⁵

H 0 2 G 3/04

識別記号

庁内整理番号

J 7028-5G

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全 3 頁)

(21)出願番号 実願平3-70890

(22)出願日 平成3年(1991)9月4日

(71)出願人 000006895

矢崎総業株式会社

東京都港区三田1丁目4番28号

(72)考案者 安江 一郎

愛知県豊田市福受町大字上ノ切159-1

矢崎部品株式会社内

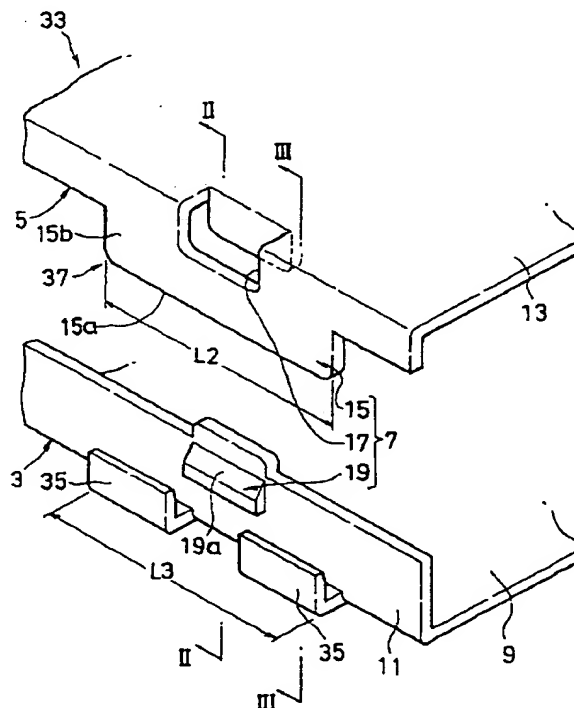
(74)代理人 弁理士 三好 秀和 (外4名)

(54)【考案の名称】 プロテクタ

(57)【要約】

【目的】 蓋体を確実にプロテクタ本体に保持することが出来るプロテクタを提供する。

【構成】 本考案のプロテクタ33は、係止壁15の下端面15a及び側面を覆うように側壁11の外周から突設された保護壁35と、係止壁15に形成されて保護壁35と側壁11との間に挿入される挿入部37とを備えたことを特徴としている。



I

2

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 底部とこの底部の両側から同方向に屈曲形成された一対の側壁とからなるプロテクタ本体と、前記側壁間を覆う閉止部とこの閉止部の両側から同方向に屈曲形成されて前記側壁の両側に係止される一対の係止壁とからなる蓋体と、前記側壁及び係止壁のいずれか一方に形成された係止穴と他方に形成されて前記係止穴に係止される係止突起とからなる係止手段とを備えたプロテクタにおいて、前記係止壁の下端面及び側端面を覆うように前記側壁の外周から突設された保護壁と、前記係止壁に形成されて前記保護壁と前記側壁との間に挿入される挿入部とを備えたことを特徴とするプロテクタ。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本考案に係るプロテクタの実施例を示す斜視図である。

【図 2】 図 1 の II-II 線に沿って切断した断面図である。

【図 3】 図 1 の III-III 線に沿って切断した断面図である。

【図 4】 係止壁に設けた挿入部を示す正面図である。

【図 5】 従来のプロテクタを示す斜視図である。

【図 6】 図 5 の VI-VI 線に沿って切断した断面図である。

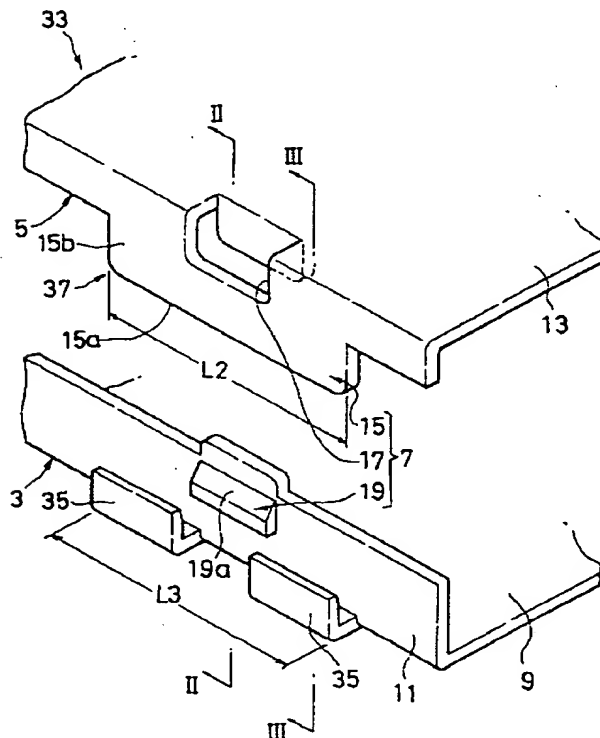
【図 7】 図 5 の VII-VII 線に沿って切断した断面図である。

【図 8】 従来の他のプロテクタを示す斜視図である。

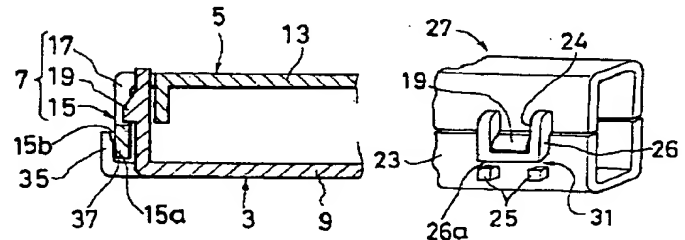
【符号の説明】

- 3 プロテクタ本体
- 5 蓋体
- 7 係止手段
- 9 底部
- 11 一対の側壁
- 15 係止壁
- 15a 下端面
- 15b 側面
- 33 プロテクタ
- 35 保護壁
- 37 挿入部

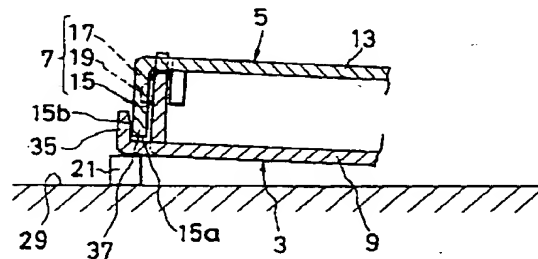
【図 1】



【図 2】

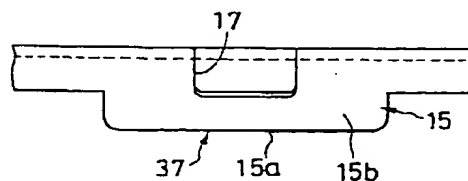


【図 3】

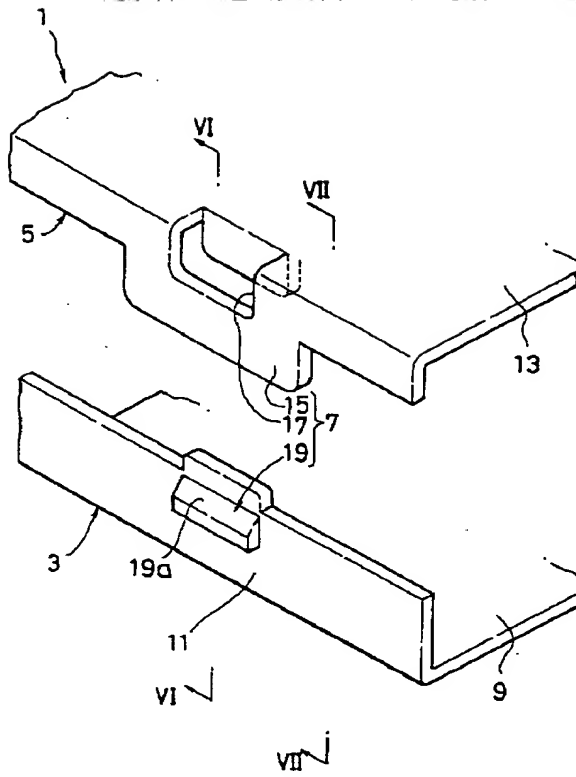


【図 3】

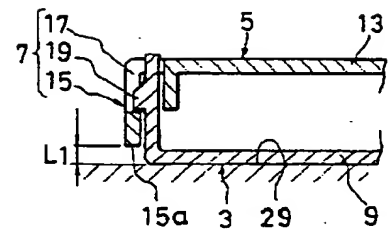
【図 4】



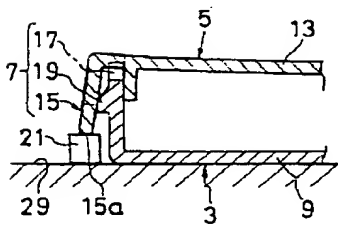
【図5】



【図6】



【図7】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、電線束が収容されるプロテクタに関する。

【0002】**【従来の技術】**

図5には、実開平1-96716号公報で提案されたプロテクタ1が示されている。同図においてプロテクタ1は、プロテクタ本体3と、このプロテクタ本体3を閉止する蓋体5と、この蓋体5をプロテクタ本体3に保持する係止手段7とで構成されている。なお、図1にはプロテクタ1の一部分を示した。

【0003】

上記プロテクタ本体3は、底部9と、この底部9の両側から同方向に屈曲形成された一对の側壁11とで構成されている。また、蓋体5は、側壁11間を覆う閉止部13と、この閉止部13の両側から同方向に屈曲形成されて側壁11の両側に係止される一对の係止壁15とで構成されている。さらに、係止手段7は、係止壁15及び閉止部13に形成された係止穴17と、側壁11に形成されて係止穴17に係止される斜面19aを有する係止突起19とで構成されている。

【0004】

上記プロテクタ1に図示しない電線を収容する場合には、底部9上に電線を載置した後、蓋体5の閉止部13で側壁11間を閉止する。そして、図6に示す如く係止穴17内に係止突起19を挿入して、蓋体5をプロテクタ本体3に保持する。

【0005】**【考案が解決しようとする課題】**

ところが、図7に示す如く、電線を収容したプロテクタ1が車両に取り付けられる場合、ボディ上の床面29から係止壁15の下端面15aまでの距離L1が短いと、床面29上に異物（床面29が屈曲した凸部あるいは、床面29上に固定されている部材等）21が係止壁15の下端面15aに当接し、係止壁15が押し上げられて、係止突起19が係止穴17から外れてしまうという問題があ

る。

【０００６】

そこで、図８に示す如く実開平２－９７８１９号公報で、係止穴２４を有する可撓性係止アーム２６の下端面２６aの下部に側壁２３から保護部材２５を突設させたプロテクタ２７が提案されている。このプロテクタ２７によれば、保護部材２５により、床面２９上の異物２１により可撓性係止アーム２６が押し上げられることがなくなり、不用意に係止穴２４から係止突起１９が外れないようになっている。

【０００７】

しかしながら、このプロテクタ２７では、保護突起２５と可撓性係止アーム２６の下端面との間に隙間３１があるので、この隙間３１に異物が挿入し、プロテクタ２７を移動させる際に、異物により可撓性係止アーム２６が押し上げられて、係止穴２４から係止突起１９が不用意に外れる恐れがある。従って、蓋体をプロテクタ本体に確実に保持することが出来なかった。

【０００８】

そこで本考案は、蓋体を確実にプロテクタ本体に保持することが出来るプロテクタを提供することを目的とする。

【０００９】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するため本考案では、係止壁の下端面及び側端面を覆う保護壁を、側壁の外周から突設したことを特徴としている。

【００１０】

【作用】

本考案によれば、例えば車両の床上にプロテクタを取り付ける場合、異物が床上にあっても、この異物は、保護壁により係止壁の下端面の下部に入り込むことがなく、また、下端面の下部に側面側から挿入することがない。これにより、係止穴から係止突起が不用意に外れることがないので、蓋体をプロテクタ本体に確実に保持することが出来る。

【００１１】

【実施例】

次に本考案に係るプロテクタの実施例について説明する。なお図5に示す従来のプロテクタ1と同構成部分については図面に同符号を付して重複した説明を省略する。

【0012】

図1に示す如く、本実施例のプロテクタ33のプロテクタ本体3の側壁11の底部側からは、略L字状の保護壁35に係止突起19を挟んで両側に突設されている。これらの保護壁35は、係止壁15の下端面15aを覆うと共に係止壁15の側面を覆うようになっている。

【0013】

一方、蓋体5の係止壁15の下部は、図1及び図2に示す如く、下方に向けて突出しており、保護壁35と側壁11との間に挿入される挿入部37となっている。また、挿入部37の長さL2は、保護壁35全体の長さL3より若干短く設定されている。

【0014】

蓋体5で側壁11間を閉止するには、挿入部37に係止突起19の斜面19aに当接させて蓋体5をプロテクタ本体3に向けて押圧し、係止壁15を傾斜面19aに沿って移動させて強制的に撓ませる。さらに蓋体5をプロテクタ本体3に向けて押圧すると、係止壁15は係止突起19を乗り越えて、図2に示す如く、係止突起19が係止穴17に挿入され、保護壁35と側壁11との間に挿入される。これにより、蓋体5は、プロテクタ本体3に保持される。

【0015】

上記の状態から、例えば車両のボディにプロテクタ33を取り付ける場合、床面29上に異物21があっても、図3に示す如く、係止壁15の下端面15aの下部に保護壁35があるので、係止壁15に不用意に力が付与されることがなく、係止穴17から係止突起19が外れることがない。

【0016】

また、係止壁15の側面も保護壁35により覆われているので、係止壁15の下端面15aと床面29との隙間に異物が挿入されることがなく、係止壁15に

不用意に力が付与されることがない。従って、係止穴17から係止突起19が外れることがない。

【0017】

また、係止壁15の撓みが、保護壁35により規制されるので、蓋体5のプロテクタ本体3への保持力を向上させることが出来る。

【0018】

なお、本実施例では、保護壁35を係止突起19の両側に形成したが、これに限定されるものではなく、保護壁35の数、位置については、係止壁15の下端面15aが覆われる位置であればいずれの位置でも良い。

【0019】

また、本実施例では、係止突起19がプロテクタ本体3に形成され、係止穴17が蓋体5に形成されたプロテクタに本考案を適用したが、係止突起19が蓋体5に形成され、プロテクタ本体3に係止穴17が形成されたプロテクタにも本考案を適用することが出来る。

【0020】

【考案の効果】

以上説明したように本考案に係るプロテクタによれば、係止壁の下端面及び側端面を覆うように側壁の外周から突設された保護壁と、係止壁に形成されて保護壁と側壁との間に挿入される挿入部とを備えたので、蓋体を確実にプロテクタ本体に保持することが出来るという優れた効果が得られる。